

明けましておめでとうございます。今月からブドウの栽培管理を担当することになりました果樹試験場・落葉果樹研究担当の田中です。1年間よろしくお願いします。

新年を迎え、ブドウのせん定時期となりましたが、昨年の収穫期以降の高温少雨の影響で、今期は早期落葉、発根不足による貯蔵養分不足が懸念されます。ブドウでは、萌芽期から展葉期までに必要な養分のほとんどを貯蔵養分に依存しており、不足した場合は発芽のバラつき等が生じる恐れがあります。今月は樹の状況に応じたせん定を実施しましょう。

【整枝・せん定】

○長梢せん定（巨峰等 有核栽培）

<幼木の仕立て方>

長梢せん定では一般的に主枝を 4 本配置します。主枝には第 1～4 までの順位があり、樹全体の養分供給の配分を整えているため、枝（芽）数のバランスが重要となります。

特に樹冠拡大中の幼木では、枝の優劣が出やすいため、枝（芽）数が第 1 主枝>第 3 主枝、第 2 主枝>第 4 主枝となるように、主幹から分岐部までの長さや目数を考慮してせん定を行い、このバランスが崩れる「負け枝」を作らないように気をつけましょう（図 1）。

主幹に近い側枝は長大化しやすく、「負け枝」を生じやすいので、できるだけ使用しないようにしましょう。

側枝は交互に、間隔を広くとって配置し、車枝や同じ方向に連続して側枝をつくらないように管理を行いましょう。

<長梢せん定のポイント>

●間伐の実施

隣の樹と枝が重なりあった園では品質の良い果実が生産できないので、思い切って間伐を行ってください。

●せん定の時期

強い寒に遭うと枝先から枯れこみますので、1月の寒にしっかり当たった後に行ってください。特に早期落葉した樹や、枝の登熟が悪い樹は注意してください。

●結果母枝の扱い

・有核栽培では実止まりを良くするために、できるだけ芽数を多く残す必要がありますので、新梢は枯れこんだ部分を切る程度にします。

・樹勢が強く、長い新梢を使わざるを得ない場合は、2次伸びする前の節間が詰まった位置で切り返します。2月中下旬に必ず芽傷を入れて、発芽後は先端の 1～3 芽を芽かぎして基部から新梢を発芽させます。

・側枝の更新のために、主枝に近い位置の基部側の短い新梢を 1～3 芽で切り戻して予備枝をつくり、更新枝を準備します。

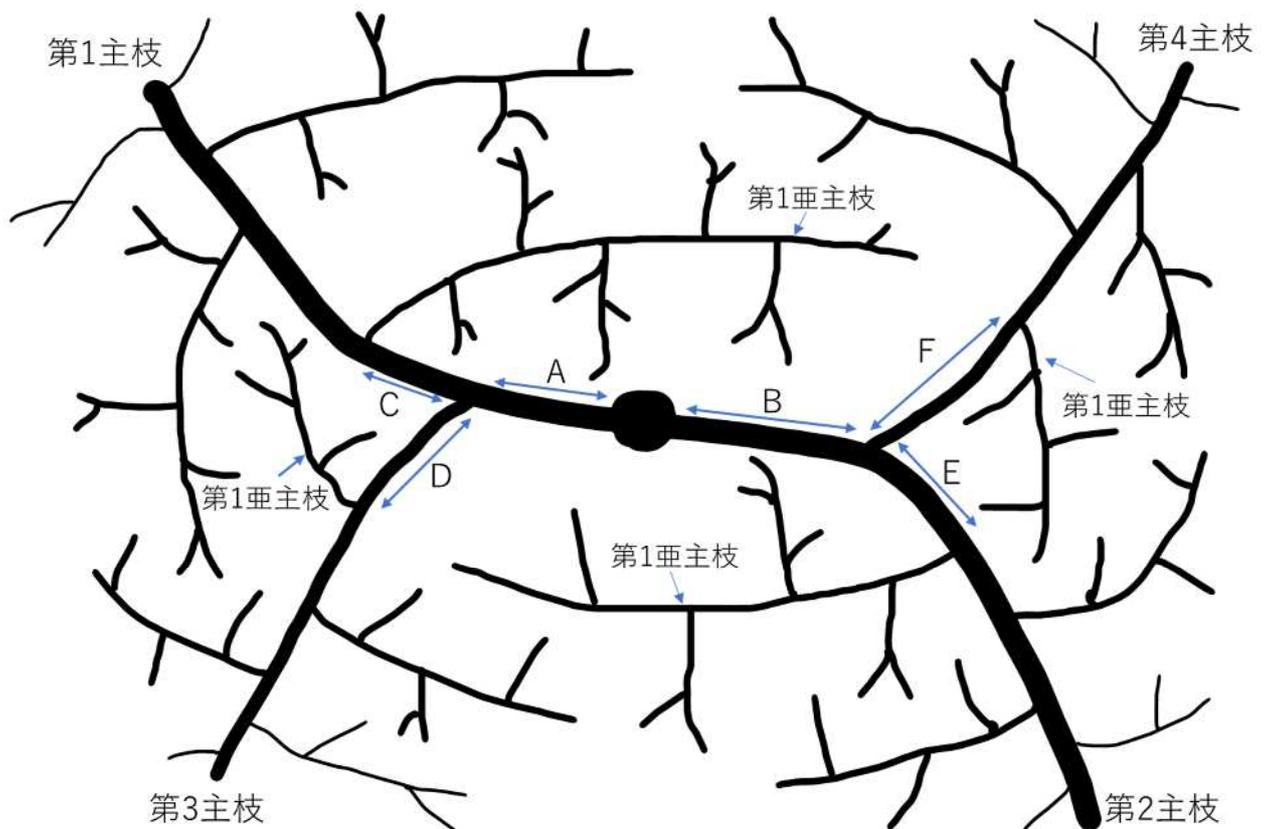


図1 X字型自然系整枝

分岐部までの長さは $A < B$ 、 $C < D \leq E < F$ とする。

○短梢せん定（シャインマスカット等）

短梢せん定は、主枝を直線上に配置し、結果母枝を全て1~2芽でせん定します。長梢せん定と比較して作業時間が短く、初心者でも取り組みやすいせん定方法です。近年‘シャインマスカット’の新植が増加しており、若木を管理されている方も多いと思いますが、若木時にしっかりと主枝の骨格を作ることが重要です。

<短梢せん定のポイント>

●1~2年目

主枝候補枝を選び、全伸長量の $1/2 \sim 2/3$ 程度を残して切り返します。「シャインマスカット」は樹勢が強い品種であるため、1年で長く伸びますが、極端に長く残すと発芽不良や芽枯れが発生するため、長くても20芽程度で切り返します。不発芽による芽座の欠損を防ぐために、主枝延長枝には全ての芽に必ず芽傷処理を行います。

●3~4年目

20芽程度で切り返しを行い、主枝延長枝には全ての芽に芽傷処理を行います。最終的な主枝長は、主枝の本数や樹勢に応じて決まりますが、H型：片主枝5~6m、一文字型：片主枝8~10mとなります。

●結果母枝のせん定

主枝に近い結果母枝のはっきりと芽とわかるものを1~2芽残して、乾燥と枯れこみを防ぐために、1つ先の芽の後ろで犠牲芽せん定しましょう（図2）。

●主枝上で芽座が欠けている場合の対応

・1~2芽座かけている場合は、両側の結果母枝の芽を多く残すか、反対側の芽を使って欠損部を補足します。

・3芽座以上欠けている場合は、周辺の新梢を主枝と平行に誘引し、欠損部の芽を補足するように被せ枝を配置します（図3）。被せ枝に利用する新梢は、樹勢が弱~中程度の場合は主枝先端方向に誘引して利用し、樹勢が強い場合は主枝基部方向に誘引して利用します。

<芽傷処理>

樹勢が強い樹や生育2年目~3年目の若木は確実に発芽させるために、樹液流動前（加温ハウスの場合1月上~中旬、露地の場合2月中~下旬）に芽の上部5mm程度の位置に芽傷処理を行います。合わせてメリット青（2倍希釈）の塗布やcx-10（20倍希釈）の散布を行うことで発芽率が向上します。芽傷処理後は枝が折れやすくなるため、せん定及び棚面への誘引が終わってから芽傷処理を行きましょう。

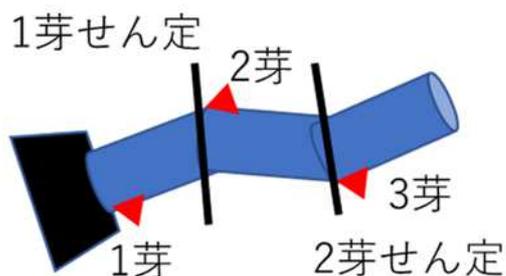


図2 短梢せん定における結果母枝のせん定

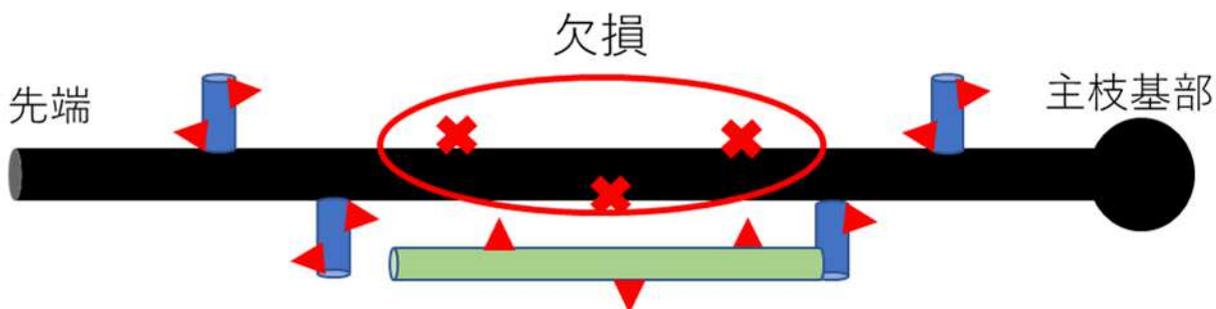


図3 主枝上の結果母枝が欠損した場合（3芽座以上）の対応

欠損部を補う新梢は先端部ほど果実肥大が悪くなるので3芽程度で止める

【休眠期防除】

昨年はべと病の発生時期が早く、やや発生が多かったです。また、'巨峰'等では毎年晩腐病が問題となります。この時期の対応は春先の病原菌の感染抑制のため非常に重要です。特に多発園については、この時期に落葉や棚上の巻きづるは、病気の感染源となるので園外へ持ち出すか土中に埋没させる等の対応を徹底しましょう。